「那須塩原市観光局」4月1日発足

栃木県那須塩原市の観光立市、定住促進に大きな1歩

観光局のかじ取り

木下昭彦局長に聞く

まずプロモと品質管理 将来的には〝法人化〟を

——観光局発足の背景は？

「これまで、那須塩原の観光は市の意向を受けた観光協会が中心になって実施してきたが、専門特化し、長期的な視点に立ち、戦略を練ってやるということがやりにくい状況だった。市にしても、①観光行政のセクションが縦割り②単年度予算で執行にいろいろな規制がある——などといった問題があり、目先のことにとらわれがちだった。これでは有効な観光施策はなかなか打ち出せない。魅力的な観光素材が多いだけに、もったいないという思いがしていた」

——観光局の目的は。

「観光戦略、告知宣伝、観光窓口整備などをトータルコーディネートするとともに、観光マーケットに適した長期的で専門性のある効果的な戦略・計画を継続して実施することで、観光交流人口を増加させ、地域活性化の基盤となる観光事業を確立することだ。そのためにはノウハウと、予算、人脈を含めて観光局に集約することが必要だ。キーワードはドラスティック、ダイナミック、そしてスピーディー」

——理解を得るまでは大変だった？

「関係者のコンセンサスを得るのに苦労はしたが、観光振興は重要との認識では一致しており、合意にこぎつけた。行政のバックアップも後押しとなったが、何より皆さんの協力に感謝している。3観光協会を一本化した上で局ができるのが理想的だったが、やむを得ない。次の課題だ」

——まず、やるべきことは。

「①観光振興②人材・地域育成③誘客④ネットワーク——などの事業を掲げているが、まずはプロモーションの展開と品質管理の一体的な推進だ。マーケットに対し、塩原、板室を中心とした観光魅力を認知してもらうべく、旅行会社やメディアなどに積極的に働きかけていきたい」

——狙うは。

「新幹線を使えば東京からわずか1時間の距離だ。それを考えると、東京を中心とする首都圏客が最大のマーケットとなる」

——品質管理とは。

「旅に食は欠かせず、その土地ならではのものを味わってみたいというニーズは大きくなっている。しかし、観光客が那須塩原と聞いてイメージする食べ物があまりない。食の豊かさをアピールするとともに、各施設における接客、おもてなしのレベルアップも図りたい」

「食でいえば、生乳生産量は本州一であり、これを生かさない手はない。新鮮な牛乳と卵を使った『とて焼』もその一つだ。このほか、『スープ入り焼きそば』もご当地グルメとしてファンが増えつつあり、『塩原高原かぶ』も注目されつつある。素材を掘り起こし、磨きをかければ通用するものはたくさんある」

「また、四季折々の商品造りも課題だ。春の花、夏の高原、定番の秋の紅葉、冬の忘・新年会プランなど季節ごとにテーマ制を持った商品を造り、絶え間なく発信していく。旅行会社に対しても那須塩原は『商品造成しやすい』と思わせなければならない」

——具体的には。

「春の誘客の手段として『ハナモモ』を考えている。1万本植栽し、桜の後の風景として『ハナモモ街道』を売り出していく。7～9月には夏のキャンペーンを実施する。宿泊客へのタオルプレゼントやとて焼券付きとて馬車スペシャル乗車券の販売などを計画している。また、サンリオとタイアップしたファミリー向けプランも目玉となる」

——やることはいっぱいある。

「観光局への期待の大きさは感じており、裏切らないよう、精一杯努力する。法人化も視野に入れており、ゆくゆくは自前のスタッフで運営ができればと考えている」

——那須塩原の魅力を改めてうかがいたい。

「塩原温泉は1200年以上の歴史を誇り、老舗の強さがある。板室温泉も同様だ。泉質もそれぞれ特徴があり、塩原は6種類の泉質も持ち、消費者の多様なニーズに対応できる。板室は『下野の薬湯』といわれるほどの効能だ。加えて、秘湯的な要素もある。日本の古き良き温泉文化を色濃く残している。また、秋の紅葉も素晴らしく、那須ガーデンアウトレットなど観光施設も充実している。観光局発足で観光振興へ新たな体制ができた。あとは攻めあるのみだ」

きのした・あきひこ 日本旅行、スキー場経営を経て、2006年に昼神温泉観光局設立を主導し、社長就任。13年2月に退任し、同年4月から那須塩原市産業観光部政策審議監就任。15年4月、那須塩原市観光局長就任。長野県出身、62歳。

観光振興の旗振り役

局長に外部の人材登用

栃木県北部に位置する那須塩原市。塩原温泉、板室温泉の2大名湯を抱え、豊かな自然、高原性の冷涼な気候などはまさに「住んでよし、訪れてよし」の土地だ。観光振興にも熱心だが、4月1日にはその旗振り役となる「那須塩原市観光局」が発足する。市単位でこのような組織ができるのは珍しく、観光立市・那須塩原市に向け、大きな一歩を踏み出す。

観光局は、①観光振興事業（市全域に関わる長期的かつ継続的な戦略構築、及びそれに基づく観光事業のプロモーション）②人材・地域育成事業（地域後継者の育成・教育及び観光施設のコンサルティング）③誘客事業（各種メディアや旅行代理店への告知及び営業）④ネットワーク事業（地産地消や地域ブランドと誘客事業を結ぶための連絡調整）——などを行い、観光振興を核にした交流人口の増加、地域活性化を図る。

局長には旅行会社出身で、昼神温泉観光局（長野県）の設立に手腕を発揮、後に社長を務めた木下昭彦氏が就任。木下氏は13年4月から市の産業観光部政策審議監を務めている。

観光局は市と、黒磯観光協会、西那須野観光協会、塩原温泉観光協会から構成され、副局長には黒磯の荻原正寿会長、西那須野の安在隆芳会長、塩原の君島則夫会長が就き、事務所は旧TEPCO塩原ランドに置く。

那須塩原市には日本の古き良き温泉文化を伝える温泉街をはじめ、那須ガーデンアウトレットなどの観光施設、明治の元勲らの歴史的な建造物、天皇の間記念公園など魅力的な観光資源が数多くある。東京から新幹線でわずか1時間という距離も武器になる。観光局の活動に観光関係者は熱い視線を送っている。

観光客数の推移（人）

入り込み客数

地　区	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
黒　磯 （うち板室）	5,620,366 638,698	4,629,282 491,634	5,599,603 543,302	5,706,494 520,512	5,778,460 529,873
西那須野	1,639,835	1,214,953	1,417,021	1,554,053	1,491,377
塩　原	3,099,045	2,274,099	2,501,668	2,529,371	2,594,741
計	10,359,246	8,118,334	9,518,292	9,789,918	9,864,578

宿泊客数

地　区	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
黒　磯 （うち板室）	156,902 124,211	122,893 96,202	132,804 101,544	131,985 95,515	125,142 89,189
西那須野	37,139	31,208	35,315	31,607	29,765
塩　原	895,248	683,557	749,526	798,124	787,396
計	1,089,289	837,658	917,645	961,716	942,303

観光局への期待

阿久津憲二　那須塩原市長

観光の〝発射台〟 定住促進の先兵

那須塩原市観光局の発足は、市が観光に向かって突き進む〝発射台〟ができたということ。今後の展開に期待大だ。全国的に見ても、市がこうした組織を作るのは珍しいと思う。市が観光振興に本気だということ。

局長の木下氏には全幅の信頼を置いており、その手腕を存分に発揮してもらいたい。

市のテーマの一つが定住促進だ。そのためには当市が人々に選ばれなければならない。インフラや医療体制の充実などさまざまな条件整備が必要だが、観光振興もその一つととらえている。定住促進の鍵を握っていると言っても過言ではない。多くの方々が当市に観光に訪れ、その魅力を肌で実感してもらい、「また来たい」「住んでみたい」と思わせることが定住につながる。その意味で、観光局は先導的役割を果たすことが求められている。

5月9日には東京・池袋のサンシャインシティで定住促進のPRイベントを実施するが、当然観光PRにも力を入れる。

荻原正寿　黒磯観光協会会長

人馬一体で推進 協力姿勢で臨む

2005年1月に合併し、那須塩原市が発足してから、消費者や旅行会社などに観光関連の情報発信が思うようにできていなかったが、観光局の発足によってこうした問題が解消される。観光専門の窓口ができたことで、外部はもちろん、われわれもとてもやりやすくなった。木下氏は経験も豊富で、局長起用はまさに適材適所だ。

観光局は専門知識を生かし、方向性、着地点をきちんと示してほしい。将来的には法人格も取得すると聞いており、早く実現することを期待している。

いくらジョッキーがよくても、馬がしっかりしていなければレースには勝てない（笑い）。われわれは馬になって一生懸命走るだけ。人馬一体で、地域間の観光競争に挑む。

観光局の構成員は市と塩原温泉、黒磯、西那須野の各観光協会だが、局のもと、これらが一体となって同じ方向に進むことが何より重要だ。協力というのがキーワードになる。那須塩原の観光は新たな段階に入った。

ジワリ人気、新たな魅力

手形

7温泉施設入浴無料に

那須塩原市をもっと楽しんでもらおうと作ったのが、観光クーポン冊子「お・も・て・那須手形」だ。那須塩原（塩原・黒磯・西那須野）と那須、大田原、矢板、塩谷の情報を満載している。

割引・特典 お得なクーポン満載
良い温泉に美味い店、
お・も・て・那須手形
まだまだ知らない那須がある。
付録 便利な大判地図
本物の出会い 栃木
2015年4月改訂版

飲食店や土産店、観光施設、入浴施設などで利用できる。冊子を提示すれば、23の温泉施設の中から、7施設の温泉を無料で楽しめる。

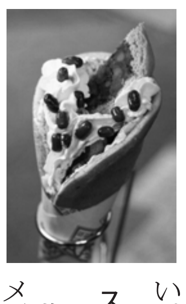
有効期間は発行日から1年。「次はどこを利用しようか」と消費者の意欲をかき立てる。掲載施設にとってもビジネスチャンスにつながるメリットがある。

価格は税込み1080円。問い合わせは塩原温泉観光協会、☎0287（32）4000。

グルメ

とて焼

塩原温泉の新しいおいしさとして、女性客を中心に人気を集めているのが「とて焼」＝写真＝だ。本州一の生乳生産量を誇る那須塩原市だが、とて焼はこの新鮮な牛乳と卵を使い、ラッパ型で、クレープとは違う食感を楽しめるのが特徴。現在、12軒で提供している。店頭にとて焼ののぼり旗があるので見つけやすい。スタンプラリーもあり、スタンプを集めれば素敵な商品がもらえる。具材は餡やクリーム、果物などから、寿司ネタやソバ、煮豚などお店によってさまざま。エッというのもあるが、味は保証付き。ぜひ食べてほしい。



スープ入り焼きそば

塩原定番のご当地グルメが「スープ入り焼きそば」。一般的な焼きそばとは異なり、見た目はラーメン。驚く人も多いが、50年以上も愛されている食べ物だ。

炒めたてのソース焼きそばを丼に入れ、醤油味のスープを注いで出来上がり。醤油味のスープは徐々にソース味と融合して、独特の風味に変わっていく。

また食べたくなる不思議な味。こばやや食堂や釜彦などが有名だが、週末ともなれば満席も珍しくない。グルメ番組でも取り上げられている。

ほたる

板室温泉にほたる乱舞

板室温泉で毎年夏に開かれている「天然ほたる鑑賞会」。人の手が入っていない、自生するほたるが見られるとあって、人気も高く、那須塩原の新たな観光名所になりつつある。

場所は那須フィッシュランド内の敷地。約200㍍の沢に源氏、平家の2種類のほたるが見られる。2種類が同じ場所で見られるのは全国的にも珍しい。「こんなに多くのほたるが間近に飛んでいるのを見るのは初めて。とても感動した」という声が多くの人から寄せられている。

期間は、今年は7月7日～8月2日。料金は大人800円、子供500円。源泉ほたるの湯宿泊者は無料。期間中、板室周遊バスも運行される。

問い合わせは黒磯観光協会、☎0287（62）7155。

天然 ほたる 観賞会
2015 板室温泉
平成27年
7/7(火)から8/2(日)まで
時間 19時45分から20時30分まで
料金 大人800円 子供500円
場所 那須フィッシュランド内
黒磯観光協会
0287-62-7155

見どころいっぱい、那須塩原

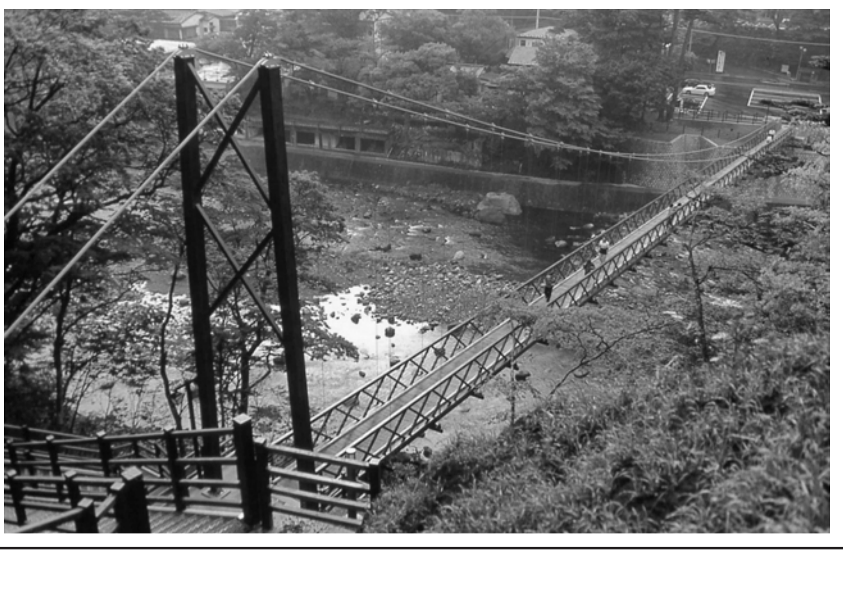
見事な花を咲かせる寺子のエドヒガン

「明治の森・黒磯」の菜の花の風景

湯治場的な雰囲気を持つ奥塩原新湯温泉

天皇の間記念公園には塩原御用邸の「天皇の間」を移築、保存

福渡温泉の「岩の湯」。公営の露天風呂だ



七ツ岩吊橋

那須塩原市観光局

〒329—2801
栃木県那須塩原市関谷448の4
☎0287（46）5326　ファクス0287（46）5328

那須塩原市商工観光課

〒325—8501
栃木県那須塩原市共墾社108の2
☎0287（62）7156　ファクス0287（62）7223